

本校の人材育成と技能五輪

兵庫県立姫路工業高等学校
溶接科 生 友 誉 敏

1 はじめに

本校は、昭和11年に兵庫県内で第2番目に工業学校として世界文化遺産国宝姫路城の北側1kmの場所に創立されました。創立当時は3学科3クラスで、1970年代には6学科12クラス、現在は6学科7クラス（機械科2、電気科、工業化学科、デザイン科、溶接科、電子機械科、生徒数840名）を有し、来年度で創立80周年を迎え、21,000名以上の卒業生を送り出しています。

「自立・創造・敬愛」の校訓を根幹にして、技術革新に対応した魅力ある工業高等学校づくりを目指し、社会の進展や科学技術の進歩に対応できる国際感覚を備えた創造性豊かな工業人の育成を図ることを教育方針としています。そして、「地域に根ざし、日本一の工業高校へ」をスローガンとして、「あ・ひ・る」をキャッチフレーズに「文武両道」「明るく、元気な学校」「美しい学校、気持ちのいい学校」を目指しています。

あ 挨拶をしよう
ひ 人の話を聴こう
る ルールを守ろう

2 本校の取り組み

本校の主な取り組みとして、「インターンシップ」「ふるさと貢献活動事業」「課題研究」「資格取得」「ものづくり技能大会参加」があります。

(1) インターンシップ

本校のインターンシップは平成10年度1年生を対象に1日校外学習（見学）から始まりました。よく平成11年に、夏休み・冬休みに2年生が職場体験、1年生が1日校外学習（2月）を行いました。このときは生徒が企業等に連絡を取り、受け入れ可能な訪問先に学校から公文書を送り、日数も1~6日とまちまちでした。

平成12年度より2年生が1週間インターンシップ就業体験、1年生がミニインターンシップと称した1日就業体験を実施しました。毎年、学年全員が2~8名程度の班に分かれ、企業や官公庁

など約80の事業所にお世話になり就業体験を行っています。



教室から見える姫路城

(2) ふるさと貢献活動事業

平成4年の「いきいきハイスクール事業」から平成12年「クリエイティブ21事業」、平成17年「地域貢献活動事業」、平成25年「ふるさと貢献活動事業」と引き継ぎ活動を行っています。

主な取り組みとして各専門科を中心とした「おもちゃ病院（機械科）」「理科サポート授業（電気科）」「化学実験教室（工業化学科）」「壁画の作成（デザイン科・美術部）」「ポン菓子機による交流（溶接科・溶接技術部）」「CAD教室（電子機械科）」があり、その他にも「ふれあい育児体験（家庭科）」「児童劇の公演（演劇部）」「花いっぱい運動（園芸部）」「化学の屋台村に参加（化学同好会）」「納涼祭り手伝い（ボランティア同好会）」など、各科や部活動など年間延べ100回以上の交流を行っています。

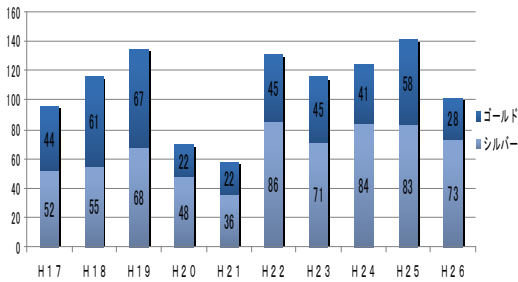
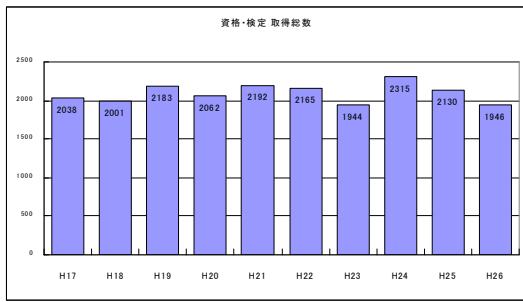
(3) 課題研究

本校の課題研究は、各専門科独自で行っているものと、科の枠を越えて他科への乗り入れを行っているものがあります。

科独自で行っているものはこれまで学習した内容をより深く追求していき、相互乗り入れでは他科の生徒も交え課題を追求しています。

(4) 資格取得

年間取得総数は毎年、約2000を取得しており、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度では常に認定者数上位校にランクしています。



(5) ものづくり技能大会

- ・高校生ものづくりコンテスト
旋盤作業部門（'10,'12 全国大会出場）
自動車整備部門（'12,'13 全国大会出場）
電気工事部門（'12 全国大会出場）
電子回路組立部門（電気科）
化学分析部門（'12,全国大会 3 位）
- ・その他の技能大会・コンテスト・コンクール
技能五輪全国大会「電気溶接職種」
（7 年連続全国大会出場）
若年者ものづくり大会「旋盤職種」
（'15 全国大会出場）
若年者ものづくり大会「電気工事職種」
（'15 全国大会出場）
ジャパンマイコンカーラリー全国大会
（'05～'14 出場）

3 技能五輪

(1) 技能五輪出場までの経緯

昭和 61 年に「課題研究」が設定され、溶接科では「ものづくり」を中心とした研究テーマに取り組んできました。このような「ものづくり」に必要な、より高度な溶接技能の習得意識向上を図る目的で、「民間人材登用制度」「特別非常勤講師制度」を活用し、企業から溶接熟練技術者を講師に招き、溶接技能者評価試験の技術指導を中心として、企業で通用する実技指導をお願いしました。また、平成 15 年からは企業の技能五輪参加選手を招き、全国大会の課題を実演していただき、ハイレベルの技術を間近にすることにより生徒の意識改革を図ってきました。このデモンストレーションでは平成 16 年度の技能五輪全国大会「電気溶接職種」で 2 位となった本校卒業生を含め、技能五輪選手の中に本校の卒

業生も多く、生徒達の技術・技能に対する意識変化が生まれました。

このような状況の中で、本校生徒から技能五輪選手を出したいと考え、技能五輪全国大会に出場している三菱重工業(株)神戸造船所の方に兵庫県大会への参加方法等を相談し、協力依頼をするとともに候補選手をピックアップし、平成 21 年技能五輪全国大会「電気溶接職種」に初出場、その後平成 26 年まで 6 年連続出場し、今年も 3 年生の宮武将大君が 2 月に兵庫県予選を通過して 12 月に千葉県で行われる『第 53 回 技能五輪全国大会「電気溶接職種」』の出場を決めています。

(2) 技能五輪に出場して

当初は、指導もどこまでできるかわからず、また練習時間も企業に比べ少ないので、予選通過はできなくてもある程度の成果を残してくれればよいと思っていました。しかし、三菱重工業(株)神戸造船所で、技能五輪出場候補の社員の方と一緒に指導を受け、細部にわたるまでの決め細やかで、ミスなどを許さず、妥協を許さない徹底した指導のおかげで急速に技量が上達し、全国大会に出場することができました。また、その厳しい指導についていった生徒のエネルギーを改めて実感しました。

「ものづくりは人づくり」と言われますが、この大会参加が決まり練習で技術を向上させるにつれて生徒の目も輝きを増し、普段の生活態度や学業に対する姿勢も変わってきました。周りの生徒への影響も大きく、身近な仲間がこのような大きな大会へ出場するという事で一層「ものづくり」への興味関心が高まってきました。検定においても、溶接技能者評価試験専門級を取得したいという生徒が増え、最近では毎年 30 名前後の生徒が取得しています。

4 おわりに

技能大会や部活動の大会において、結果だけが注目されることが多くありますが、生徒の普段の生活態度や学校全体の雰囲気の下地があってこそその結果だと確信しています。

技能五輪においても、学校の取り組み「あ・ひ・る」を基礎にして「インターンシップ」や「ふるさと貢献活動事業」で近隣の方々や企業の方々に協力してもらい、生徒の成長につながっているのを実感しています。

まだまだ課題は多くありますが、地域の方々に「愛される学校」、子供が「行ってみたい学校」、職員が「働いてみたい学校」を目指して励んでいきたいと考えています。